

特115

913

前田青山點譜

城

山

第壹版

(日本琵琶用)

国立国会
51.10.1
図書館

玄象會出版部



始



8115
9/3

城 山

勝 海 舟 作

(彈出) (謠出) 夫れ達人は大觀す (一番) (干) 拔山蓋世の勇あるも (四番)

(三) (乙) 榮古は夢か幻か (一號) (三) (乙) 大隅山の狩倉に (三) 眞如の

月の影清く (水地) (切) 無念無想を觀すらん (十六番) (六) 何を怒る

か怒り猪の (地) (五) 俄に激する數千騎 (地水) (五) 勇みに勇む逸

り雄の (水地) (五) 騎虎の勢一徹に (青玄) (上) 止まり難さぞ (水地) 是

非もなき(中)たゞ身一つを打捨て、(下)若殿輩に報いなん(二聲)

(四)明治十年の秋の末(水) (崩六)諸手の軍打敗れ(五)討ちつうた

れつやがて散る(五下) (六)霜の紅葉の紅の(四)血汐に染めど顧

みぬ(七下) (四)薩摩猛男のをたけびに(四)打散る弾丸は板屋打

つ(二下) (六)霰たばしる如くにて(三)面を向けん方をなま(三下)

(六)木靈に響く(五)関の聲(水地) (六下)百の雷一時に (五)落つる

が如き有様を(一五) (五)隆盛打見ては、を笑み(十八番) (六)あな

勇しの人々や(地) (五)亥の年以來養ひし (四)腕の力もためし

見て (三)心に残ることもなし(七番) (四)いざ諸共に塵の世を

(三)脱れいでんは此時と (三)たゞ一言を名残にて(主) (三)桐野

村田を始とし(五)宗徒の輩諸共に(水地) (五)煙と消えし丈夫

の (干)心の中こそ勇ましけれ(三聲上) (四)官軍之を望み見

て(二九番) (四)昨日は陸軍大將と仰がれて(三〇番下) (六)君の寵

遇世の覚え(地) (五)比類なかりし英雄も (四)今日は敢なく岩

崎の(三)山下露と消え果て、(溪聲)移れば變る(主)世の中

の (下)無常を深く感じつゝ、(秋聲)無量の思ひ(三番)胸に満

ち。(三)只蕭然として隊伍を整へ(土) (下)目と目と見合すばか
 りなり。(四聲) (四)折しもあれや吹き下ろす……(千)城山松の夕嵐
 (六號) (三)岩間に咽ぶ谿水の……(三)非情の聲も何となく(水地) (五)(止)
 悲鳴するかと聞きなされ(土三) (三)戎服の袖を濡らし(土三)添
 ふらむ(土二)(止一番)

四

大正十一年三月二十日印刷
 大正十一年三月二十日納本
 大正十一年三月廿六日發行

定價 金四拾錢

著者權所有
 不許複製

東京市牛込區下戸塚町八番地
 著作兼發行者 前田 佐久次
 東京市日本橋區三代町廿二番地
 印刷者 中 村 寅 吉
 東京市日本橋區三代町廿二番地
 印刷所 會社 明 昇 舍
 東京市牛込區下戸塚町八番地
 發行所 玄象會出版部
 電話濱町三七六七番
 振替東京五七七七二番

終

